

聖書: マタイの福音書2章1,2節

説教: 異邦人の救いの神

今朝は、主の御降誕をお祝いするクリスマス礼拝です。ところでクリスマスとは何か。多くの方は、お盆や正月と同じように楽しく過ごす日くらいにしか思っていない。クリスマスをお祝いするのだから、信じているのかといえば、そうではない。

「キリスト教はアメリカやヨーロッパの宗教でしょう？私は日本人だし、家には仏壇や神棚もあるからそれで間に合っています。」私もかつてそんな人間でした。でも本当にキリスト教は外国の宗教で、日本人には関係ないのか。さきほどの話しの中に、三人の博士たちが救い主を捜してはるばる旅をしてきたというシーンがありました。彼らはいったい何者でどこからやって来たのか。そこから考えていきましょう。

この三人の博士たちは「東の方から博士たちがエルサレムにやって来た」と書いてあります。

「東の方」というだけでは漠然としています。そこでいくつかヒントがある。「私たちはその方の星が昇るのを見たので。」彼らは星に関する専門家らしい。当時、このような専門的知識を持っている人たちはかなり限られています。「イスラエルの東の方」と言えば、もうあそこしかない。今のイラクを流れるティグリス・ユーフラテス川。その周りにはかつてペルシャ文明が栄えていて天文学、占星術、数学が盛んだったと言われます。博士たちはそこから来た。

彼らが星空を観測しているとある夜、今まで見たこともない不思議な星を発見します。すぐにこの星は何のしるしなのかということになり、世界各地から集めた文献を調べ、ユダヤ人の王が生まれたというしるしに違いないということになった。そのことを確かめようということになり、およそ千キロ離れたイスラエルを目指した。札幌と大阪の間です。おそらく数ヶ月かけてシリア砂漠を横断しイスラエルを目指した。ところが一つだけ問題があった。イスラエルの王が生まれた国は分かっています。けれどもイスラエルのどの町で生まれたのか、細かい情報まではわかりません。そこは実際に現地に行って調べるしかない。イスラエルの王ですから、みんな知っているだろう。それで、エルサレムに着くとすぐに、「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおられますか」と叫んだわけです。

千キロにもわたる長い砂漠の旅を乗り越えてでも、イスラエルの王に会いたいと思った。博士たちをそこまで駆り立てた動機は何だったのでしょうか。よほどのことがなければこんなことはしません。自分たちの発見が正しいかどうか証明したいという学問的な好奇心からか。そうではなかった。彼らはこう言っています。「私たちはその方を礼拝するために来ました。」それだけではない。幼子イエスを見つけた時は、わざわざ宝の箱を開けて、高価な贈り物をしています。学問的な好奇心だけならこんなことはしない。ヒントは「礼拝しようとしてやってきた。」この一言にあります。贈り物を献げ、礼拝しようと言うからには、産まれた幼子は何か特別な方ということになる。先ほど、羊飼いたちのところに御使いが現れた場面がありました。あのとき御使いはこう告げていました。

「きょうダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそキリストです。」

昔、イスラエルでは、王となる者に油を注ぐ習慣がありました。キリストとはこの「油注がれた者」からきている。イエス・キリストとよく言いますが、それはイスラエルの王・その名前はイエスという意味になります。羊飼いたちは御使いに教えてもらって救い主が産まれたことを知りました。でも博士たちはユダヤ人という外国の文書である旧約聖書を読んでイスラエルの王の誕生を知った。ただの王ではない。救い主です。この救い主に会いたい。その一心で長い旅を乗り越え、無事にうまやで眠ってるイエスを見つけて礼拝していくのです。こうして世界で初めて外国人がクリスマスをお祝いしていきます。

もしイエス・キリストがユダヤ人だけの救い主だったのなら、どうなっていたか。博士たちが行っても、「あなたは関係ありません」と言われて門前払いです。でもどうですか。博士たちが礼拝しにやってきた時、イエスはその礼拝を喜んで受けました。「そのとき赤ちゃんだから、何もできないですよ。」そう言うかもしれません。でも、この方は神のひとり子です。どんなお姿であろうとこの世界を御支配しておられます。イエスが迎えて下さったので、博士たちが会うことができたのです。

ところで、いま皆さんが心痛めていることは、世界で起きている戦争のことではないでしょうか。

救い主が本当におられるのならどうして戦争を止めないのか。だれもが疑問に思っている。クリスマスは作り話か。それとも神は人間には無関心なのか。いいえ、反対です。私たちを救うために、救い主となられてこの世界に來られました。すでに私たちを救うために働いておられたのです。でも戦争がなくなるのはなぜか。

私たちは、テレビを見ながら戦争をする人たちは悪い人たち、と簡単に批判します。でも自分ことを振り返ったらどうでしょうか。そこにはなにがありますか。欲望、隠し事、嘘、偽り、ねたみ、憎しみ、まさに罪のデパートです。自分を振り返れば、悪いのはあの人、私はよい人とはとても言えない。悪いのはあの人たちだけではない。自分も実は戦争を仕掛けていて一人だったのではないか。そうなるとどこにも救いがありません。だから私たちには、救い主が必要なのです。

この三人の博士たち。彼らは切実にまちのぞんでいたのは、自分たちを罪から救って下さる救い主でした。それがなんといま来てくださった。その方に会うために、彼らはいのちをかけて旅をしていきます。

救い主に会うためにそんな覚悟が必要でした。でも今は違う。もう遠い旅をする必要はありません。ただ、心の中でイエス・キリストこそ私の救い主ですと告白するなら、主は喜んでお一人一人を迎えて下さいます。そのとき、この争いの世界にも平和のともしびが灯されていきます。